「名張市立小中学校の規模・配置適正化後期実施計画」に対する
桔梗が丘自治連合協議会の提言

平成28年5月

三重県名張市
桔梗が丘自治連合協議会

目　　次

Ⅰ．はじめに ---------- 1

Ⅱ．提言 ---------- 2

Ⅲ．提言の理由、及び付帯意見 ---------- 3

１．３小学校の統廃合計画について ---------- 5

（A）支援学級に関する体制 ---------- 6

（B）学童保育（放課後児童クラブ）の体制 ---------- 6

２．小中一貫教育、小中一貫校に関する課題 ---------- 8

３．市内中学校の学区 ---------- 14

４．三重県立名張桔梗丘高等学校跡地の利活用 ---------- 15

５．ホッケー競技場について ---------- 18

Ⅳ．あとがき ---------- 19

学校の統廃合、小中一貫教育、小中一貫校等に関する
桔梗が丘地域の声(一部) ---------- 20

Ⅰ．はじめに

平成28(2016)年２月、名張市教育委員会（以下、市教委と略す）は「名張市立小中学校の規模・配置適正化実施計画」に基づき、桔梗が丘地域内の３小学校と桔梗が丘中学校を統合し、閉校となる三重県立名張桔梗丘高等学校校舎と桔梗が丘東小学校を活用して、「(仮称）桔梗学園桔梗が丘小中一貫校」を開設すると発表しました。

さらに同年３月、桔梗が丘地域内３公民館（現在は市民センターと改称）において住民説明会、各小学校で保護者説明会が開催されました。

この説明会において、学校統廃合の必要性、一貫校の利点の説明がありましたが、出席者からの質問に対しては一部の回答しか得られていません。

市教委のプランは、
「桔梗が丘小学校、桔梗が丘南小学校、桔梗が丘東小学校と桔梗が丘中学校の統合を進め、桔梗が丘東小学校と県立名張桔梗丘高等学校の校舎を利活用して小中一貫校（仮称）『桔梗学園』を設置します。」というものです。桔梗が丘東小学校では第１学年から第４学年まで、名張桔梗丘高等学校校舎では第５学年から中学３年までが学ぶという計画です。

開校は平成31(2019)年４月の予定としています。名張桔梗丘高等学校は平成30(2018)年３月に閉校となりますので、その後１か年をかけて改修・整備するという計画です。

したがって、桔梗が丘小学校、桔梗が丘南小学校および桔梗が丘中学校の３校は、平成31(2019)年3月31日をもって廃校になることになります。

この発表は小学生、中学生の保護者だけでなく、未就学児の保護者、桔梗が丘地域住民にとって大きな衝撃となっています。

地域づくりの主体は地域です。地域の主役は住民です。

名張市は、学校統廃合計画の策定、計画の実施に際し、地域の意見・要望をまったく考慮せず推進していくつもりなのでしょうか。

桔梗が丘の多くの住民が、この思いを持っています。子ども、学校がこれからどうなっていくのかという不安、そして地域の現状が考慮されていないのではないかという思いを胸に秘めるのではなく、声としてまとめ、地域の考えを関係先に提出しなければならないと考え、保護者の意見、要望、桔梗が丘に住む多くの人の声や疑問を集約し、桔梗が丘自治連合協議会からの「提言」として、名張市および名張市教育委員会に提出することといたしました。

学校の主役は子どもたちです。学校は、地域の大切なかけがえのない財産です。

学校教育は地域の理解、協力がなければ成り立ちません。市・市教委はこの提言を真摯に受け止め、子どもたちの未来のために、保護者、地域、市民の期待と信頼に応えることのできる、慎重に立案された計画に基づいて学校教育を円滑に進めていただきますよう切に願っています。

平成２８年５月２１日

桔梗が丘自治連合協議会　　会長　　辻森　保蔵

Ⅱ．提言

１．桔梗が丘地域内の３小学校を統廃合せず、当面現状のまま維持することを強く希望する。
「名張市立小中学校の規模・配置の適正化実施計画」は、平成２２年に策定されている。過去に決められたことであり、状況は変化している。
地域によって15歳未満人口に差があるにもかかわらず、１地域に１小学校と、一律に統廃合を行うことには大きな疑義がある。

なお、下記の２項目について、ご回答、ご計画をお示しいただきたい。

（Ａ）市教委の統廃合計画に、支援学級の配置、児童・生徒に対する必要な配慮が示されていない。
これは、児童・生徒、保護者、関係者、及び支える仲間に対する重大な人権問題であると考えられる。

（Ｂ）学童保育（放課後児童クラブ）について、統廃合計画では触れられていない。
統廃合する場合、保護者が安心できる学童保育の施策を示していただきたい。
桔梗が丘東小学校近辺は生活道路である。その道路を送迎のための車両が出入りする際の事故防止策、安全対策も併せて示していただくよう要望する。

２．小中一貫教育については、実施するのであれば、その教育的効果を発揮するために一体型が望ましいと思われる。
一体型による実施が難しいようであるならば、現在の小中学校が連携すること等、一体型でなくても同じ教育効果が表れるよう検討し、教育上の工夫、改善を要望する。

３．市内中学校の学区については、市域全体を見直し、生徒の安全・安心な教育環境を向上させるために、保護者、地域はもちろん、市民の理解が得られる学区を設定するよう希望する。

４．名張桔梗丘高等学校は県有施設であることから、将来展望を踏まえた検討を行うために、県、市、地域と今後もさらに綿密な協議が必要であると考えられる。
市教委が企図している利活用計画の実施は、住民の理解が得られるまで、留保を望む。

５．名張桔梗丘高等学校跡地グラウンドを三重国体ホッケー会場として利活用することは、小中学校の統廃合とはまったく無関係であると考える。

Ⅲ. 提言の理由、及び付帯意見

1～5の番号は、前頁「提言」に記載した番号に関する内容です。

＜「地域」の定義＞

桔梗が丘地域という「地域」の定義は、名張市地域づくり組織条例第５条第１項に基づく地域づくり組織の区域をひとつの地域として指定するものです。

「地域づくり」とは名張市内１５の地域づくり組織において策定された行政計画を意味します。*1

桔梗が丘地域の地域づくり組織の名称は、「桔梗が丘自治連合協議会」です。

桔梗が丘地域は平成27年10月1日現在、

人口総数	13,921人	5,677世帯
15歳未満	2,020人	
15歳～65歳未満	7,674人	65歳以上　4,227人

となっています。 *2

15歳未満の人口は、15地域のうちで桔梗が丘地域が最も多く、桔梗が丘地域に次いで、つつじが丘地域1,487人、百合が丘地域1,076人と続きます。

1.　3小学校の統廃合計画について

「『地域』には１小学校とする」という計画に対して、桔梗が丘地域は大きな衝撃を受けています。

(1)「名張市立小中学校の規模・配置の適正化実施計画」では、前期実施計画を平成22年度から26年度まで、後期実施計画は平成28年度～32年度とし、策定方針として、

> ①全学年が１学級で編成されており、その状況が継続すると見込まれる小学校
> （薦原小学校・箕曲小学校・桔梗が丘東小学校）
> ②平成31年度までの間に全学年を１学級で編成しなければならない状況になると見込まれる小学校
> （桔梗が丘南小学校・すずらん台小学校）
> ③小学校が複数配置されている地域において、配置の適正化の対象とする小学校
> （桔梗が丘小学校・桔梗が丘南小学校・桔梗が丘東小学校）
> 上記①②③について、前期計画の最終年度である平成26年度までに、児童生徒数の推移を見定めて実施計画を策定し、統合を推進する。

と示しています。

(2)市の論拠は、「この『適正化実施計画』に示されているとおり決まっているから、桔梗が丘地域３小学校を１小学校に統合する」、というものです。地域の面積、15歳未満の人口の多寡、通学に要する時間等は考慮の対象になっていません。就学児童・生徒、就学予定の子どもが他の地域より多くても、通学にいっそう時間がかかる子どもが何百人も出ることになっても、「１地域に１小学校と決まっている。だから複数ある小学校は統合する」という論理です。

---

*1　*2　「名張市総合計画『新・理想郷プラン』第1次基本計画」平成28年2月

(3) 教育長が住民説明会で、「変えられないものは変えられない」と説明したのは、この前提を指すものと思われます。*1

(4) 文部科学省は、都道府県教育長宛の通知、『公立小学校・中学校の適正規模・適正配置に関する手引き』 の中で、次のように示しています。 *2

「学校規模の適正化や適正配置の具体的な行動については、行政が一方的に進める性格のものでないことは言うまでもありません。各市町村においては、上記(*3)のような学校が持つ多様な機能にも留意し、学校教育の直接の受益者である児童生徒の保護者や将来の受益者である就学前の子供の保護者の声を重視しつつ、地域住民の十分な理解と協力を得るなど『地域とともにある学校づくり』の視点を踏まえた丁寧な議論を行うことが望まれます。」

市教委は、住民アンケートやパブリックコメントによって十分に意見を聴取しているとの見解をとっています。

(5) パブリックコメントの実施は平成21年、住民の意見聴取(抽出による一部を対象)は平成22年でした。また第２次基本計画策定に際しての抽出による意見聴取は平成27年に実施されています（回答は5名、31件)。この際の設問では、桔梗が丘地域の小学校統廃合には触れられていません。

(6) 「適正化実施計画」の策定にあたり、市は平成22年10月から翌年２月までに過小規模校等の保護者、地域に対して意見の聞き取りを行っていますが、桔梗が丘地域はこのとき統廃合に関する意見の聞き取りは行われていません。

(7) 「適正化実施計画」の後期計画実施にあたっては、当初の計画をそのまま継続実施するのではなく、見直しを行い、時代に即した計画を、市民の意見を尊重してあらためて立案し、実施すべきです。

(8) 「適正化実施計画」の前期実施計画では、（１）基本事項の②に、

「統合は、原則同一中学校区の小学校との間で行うものとする。この際、基本は統合時の児童数の多い学校に統合する。」

とあります。統合に際して、児童数の少ない学校が児童数の多い学校に吸収される形態は、地元の了承を得てやむを得ず統合する場合の方針として納得が得られるものです。

(9) ところが、後期計画からこの「児童数の多い学校に統合する」の文言が消え、

基本事項③　統合は、中学校を単位に校区の見直しを含め、全市的に検討します。なお、基本は敷地及び校舎規模の大きい学校に統合します。

④　統合による学校の新設は行わず、既存の学校施設を活用します。

に変わっています。在籍児童の多寡や、通学時間の負担、安全は考慮されていません。

理由も示されずに、統廃合方針が前期と後期で方針転換されています。なお、３校のうち、学校用地、校舎面積がもっとも大きいのは桔梗が丘南小学校です。*4　閉校となる名張桔梗丘高校の校舎を活用することを前提にしたと思われる計画に変わっています。

---

*1　各公民館における住民説明会での発言　　平成28年3月13日

*2　文部科学省　各都道府県教育長宛通知『公立小学校・中学校の適正規模・適正配置に関する手引き』平成27年1月27日付け　3ページ「地域コミュニティの核としての性格への配慮」

*3　引用した部分の直前の段落に、
「小・中学校は児童生徒の教育のための施設であるだけでなく、各地域のコミュニティの核としての性格を有することが多く、防災、保育、地域の交流の場等、様々な機能を併せ持っています。また、学校教育は地域の未来の担い手である子供たちを育む営みでもあり、まちづくりの在り方と密接不可分であるという性格も持っています。」とある。

*4　名張市教育委員会『平成27年度　教育要覧』「学校教育施設」　の表による

桔梗が丘地域内で一番在籍児童の多い桔梗が丘小学校（平成27年度：児童数489名、19学級(支援学級を含む)）を廃校とし、別の学校に通学させることは市民の誰がみても理解できません。耐震工事を終え、教室の設備も完備し、視聴覚設備や機材が揃い、さまざまな備品や教材が充実している立派な学校です。

(10) 桔梗が丘南小学校（平成27年度：児童数241名、13学級）も同様に、１学年1～2学級で変わらないことは確実です。他の小学校と同様、施設も整っており、廃校とする理由はないと考えられます。

(11) 桔梗が丘小学校児童の約８割は桔梗が丘西地区から通学しています。

ところで、桔梗が丘西4番町には25,936㎡もの広大な土地が小学校建設予定地として確保されています。 *1

この小学校予定地の面積は桔梗が丘３小学校のどこよりも広く、転入してきた家族は近いうちに、この場所に新しい立派な小学校が建設されるものと信じていました。

しかしその期待は空しく、夢は実現しないまま、桔梗が丘小学校まで駅コンコースを通って通学しなければならないという、あり得ない状況を強いられています。

桔梗が丘西地区の小学生の現在の通学距離・時間は、子どもたちにとって精神的にも肉体的にも、ほぼ限界であり、この状態が何年も続いていることを認識してください。

(12) 桔梗が丘小学校と桔梗が丘東小学校の直線距離は980mあり、実際の道ではかなりの距離になります。通学距離がさらに伸びて、桔梗が丘西地区の児童が桔梗が丘東小学校まで通学することは不可能です。交通量の多い道路の横断、狭い歩道など危険個所が多すぎ、とくに低学年の児童にとっては身体的な苦痛を強いることになります。

(13) 何の不都合もない桔小を廃校にし、通うことを許されなくなった桔梗が丘小学校の建物を横に見ながら、1km以上も遠くなった桔梗が丘東小学校までどんな気持ちで通学するか、桔梗が丘西地区の子どもたち約400人の思い、また桔梗が丘南小学校の子どもたちが、通学時間帯には交通量がとくに多くなる危険な国道を毎日横断しなければならなくなる、その思いを教育を担う市教委は真摯に受け止めてください。

(14) スクールバスを出してはどうか、という案も一部にはありますが、バス通学は児童・保護者とも望んではいません。徒歩通学が最も望ましい姿です。ましてバスになれば、約400人の児童のために何台のバスが必要か、桔梗が丘東小学校の校門に入れるかどうかは重要課題です。

(15) 毎日先生や友だちと仲良く過ごしている学校を廃校とし、別の学校に通うように指示された児童・生徒が、それを決めた大人を信じてくれるでしょうか。

教育長は「改革方針」（率先実行取組）の前文とミッションでこう述べています。*2

「名張市教育委員会は、これからの時代を見据え、『子どもや市民の幸せ』のため、今、何が必要かをしっかり捉え、市民・社会のニーズに応える教育行政を推進していきます。」

「将来を担う子どもたちが、安全・安心な教育環境のもとで、夢や希望を持って学び続け、（中略）市民みんなできめ細やかな教育がすすめられるよう支援していきます。」

現在の通学先である桔梗が丘小学校、桔梗が丘南小学校、桔梗が丘中学校を喪うことになる子どもは、夢や希望を抱けません。子どもたちにとって大切な学校を維持し、充実した学習ができるよう、「きめ細やかな教育」を進める義務は、市教委にあります。

---

*1 「平成27年度　教育要覧」未利用土地の状況　の項目　名張市教育委員会

*2 「平成26年度　名張市教育委員会教育長の改革方針（率先実行取組）」前文 および 1. ミッション

(16) 名張市の未来を担う子どもたちのために、市はしっかりした具体的ビジョンを構築し、行き届いた教育施策を実施しようとしているのか、疑問を抱かざるを得ません。

本年3月に公表された「名張市総合計画『新・理想郷プラン』基本構想」には、教育に関して、 *1

「生きる力を育むための学校教育」、「生きる力を育む教育の推進に取り組みます。」

と、わずかこれだけです。「重点戦略」にも、教育にはまったく触れていません。

(17) 学校は、卒業した者だけでなく、地元にとっても、その地の歴史を背負った財産であり、誇りです。統廃合は、それをしなければ子どもたちの学習環境が維持できない、さらに困難さを増すと考えられるときの、地元にとっても苦渋の決断です。したがって統廃合は、子どもたちにとってより好ましい結果がもたらされる場合に限ると考えます。

(18) 名張市は毎日の通学に不安を感じ、疲れ切った何百人もの子どもをつくるのですか。それとも、子どもが元気で輝く目をもってくれるよう、大人たちが努力するのですか。

今、問われているのは、教育行政、地域が、未来の名張市を背負う子どもたちが元気で精いっぱい活躍し、立派な人材になってもらえるよう、通学上の困難を最小限にし、しっかり学べる環境づくりに全力を尽くすことではないでしょうか。

(A) 支援学級に関する体制

桔梗が丘地域の統廃合対象校である４校には、支援学級が設置されており、児童・生徒が日々しっかりと学んでいます。

（法令等に基づいて、「特別支援学級」と記載すべきですが、この学級で学ぶ児童・生徒への学習等の支援は、「特別」に行っているものではないと考えていますので、この表記とします）

平成27年度の支援学級数と児童・生徒数は、

３小学校合計	学級数	7	児童数	28
桔梗が丘中学校	学級数	1	生徒数	4

となっています。 *2

① 一貫校になれば、支援学級の児童・生徒も統合された学校で学ぶことになります。子どもたちの通学問題、校内での学習環境をどう保障するのか。通学が現在よりも困難になるとしたら、また教室配置が不適切なものになったり、また多くの児童・生徒との交流の機会が少なくなるなど、現在よりも後退するようであれば、重大な人権問題になる虞があります。

② 本人たちは言うまでもなく、保護者や支える仲間たちは大きな不安を抱いています。適切な実施計画の公開と詳しい説明を希望します。

(B) 学童保育（放課後児童クラブ）の体制

一貫校を開校した際の学童保育（放課後児童クラブ）について、今までの説明では何も触れていただいていません。学童保育は、学校の統廃合問題とは別の課題とする考えもありますが、学童保育によって安心して働くことができる保護者にとっては重大な心配ごとです。

---

*1 「名張市総合計画『新・理想郷プラン』基本構想 (2016(H28)年度～2025(H37)年度)」20ページ
平成28年3月24日名張市議会議決

*2 学校教育情報サイトGaccom（平成27年度 学校基本調査）による

① 一貫校となって通学先が変わったとき、学童保育（放課後児童クラブ）がどうなるのか、保護者としては不安です。

② 「一億総活躍社会」を目指す政府の方針どおり、多くの方の活躍する場が広がってきています。保護者もまた、さまざまな分野で活躍しています。これに伴い、学童保育はより重要性を増してきており、今後さらに希望児童が増加すると思われます。

③ 放課後児童クラブの申込児童数・利用人数は、3小学校の人数を合計すると、次のとおりです。

＜平成27年4月の状況＞ ＊

申込児童数（スポット利用を含む）			利用人数（4月に8日以上利用）	
1～3年	124	(28.1%)	95	(21.5%)
4～6年	33	(7.4%)	22	(5.0%)
計	157	(17.8%)	117	(13.2%)

現在の利用人数は、3校合わせて約130名になります。統合されると、桔梗が丘東小学校で学ぶことになる1年～4年のうち、放課後児童クラブの子どもたちは100名を超えると思われます（推定）。

この制度をどのように実施しようとしているのか、保護者をはじめ、地域にとっては大きな不安です。また5・6年生の中にも、この制度を利用する児童がいます。担当である福祉子ども部の詳しい計画、説明をお願いします。

④ 小学校が統合されれば、自宅と学校との距離が遠くなる家庭が大部分です。保護者が迎えに行く際にも負担が増大します。

⑤ 4年生までの数多い保育児童を迎えるために、桔梗が丘東小学校に向かう保護者の車が学校前の道路で混雑することが懸念されます。校地に車が入れる唯一の道は狭く急坂で、人と車が錯綜します。また学校前の道路は生活道路となっており、道は狭隘で、住民の方に迷惑がかかるだけでなく、事故の危険性も増大する心配があります。事故の未然防止、安全に配慮した具体案を示してくださるようお願いします。

＊ 市への問い合わせに対する回答　　%は3小学校を合計した在籍児童数との割合

2.　小中一貫教育、小中一貫校に関する課題

小中一貫校については、設置の目的、学習効果、児童生徒の発達面などさまざまな実践報告があり、今後も増加していくことは理解しています。

小中一貫校が一体型で設立され、1年生から9年生まで体系的な指導体制のもとで実施されるのであれば、地域として設置に納得し、受け入れる余地があります。

しかし、6,3制の義務教育を一貫校として実施することについては、現在あまりにも情報が不足していると言わざるを得ません。一貫校のメリット・デメリットはもちろん、さまざまな課題や新たな心配ごとが生じることも考えられます。さらに精査して、検討を進めていただくよう希望します。

また、市内の子どもたちが等しく充実した教育環境にあり、誰もが十分な指導を受けられるようになることを前提に、一貫教育を計画していただくようお願いします。

(1) 一貫校については、他の自治体ではさまざまな理由で、「一体型」「隣接型」「連携型」などの形態がとられているようです。名張市は、桔梗が丘地域内の小学校の統廃合、小中一貫校設置に関し、公式の会議で以下のように表明しています。　*

① ＜教育長＞

後期行動計画は(2月)17日の全員協議会で初めて公表した。(一部略)この後期計画は平成22年の方針に基づいて策定している。小中一貫教育に係る国の制度改革もあり、一部見直したところもあるが、子どもに行き届いた教育をするとともに、地域の賑わいを保っていくため、この計画を推進していく。意見を聞かせていただき、ご了解いただければありがたい。

② ＜名張市＞

- **跡地利用はあくまで案であって、市が主体となって、今後、地域と協議していく。**
- (「桔梗が丘南から東小学校や桔高まで歩いてみたが、40分かかる。教育委員会はどのように安全を確保していこうと考えているのか。バス通学も検討しているのか」の質問に対し)

通学路については、後期実施計画に同意いただいたところから、統合準備協議会を立ち上げ、安全な通学路を検討していく。距離は、国の基準が4kmとなっており、基準に則れば徒歩になる。

- (「小中一貫教育のデメリットもあると思うので、保護者には丁寧に説明いただきたい」の発言に対し)

メリットもデメリットもあるが、まちづくりを基本として、名張市を担う子どもを育てたい。名張市の子どもにとって質の高い教育を将来にわたって担保することを一番重要なこととして考えて進めていく。

- (「桔梗が丘西の子どもが多い中で、なぜ桔梗が丘小学校を残さないのか」の質問に対し)

西の児童も4km内であるので、徒歩を考えている。桔梗が丘小学校を残せない理由として、桔梗が丘小学校は運動場も狭く、少人数学級を実施しようにも教室数が少ない。しかし、桔梗が丘東小学校は３校の中で運動場も一番広く、校舎も新しい。小中一貫教育を進めるうえで、施設一体型が一番効果的であるが、名張市は一体型は設置しない方針であるため、次に効果的な隣接型の小中一貫校を桔梗が丘東小と桔梗丘高等学校を活用して設置いたしたい。平成32年から始まる新指導要領の改訂に対応するためにも機を逸しないよう、進めてまいりたい。

---

*　「名張桔梗丘高校跡地利活用に係る桔梗が丘連合協議会及び連合合同説明会」業務記録　平成28年2月20日

・(「この計画は変更の余地があるのか」の質問に対し)

大きな流れは変えられない。しかし、聞くべきところは聞かせていただく。

・ 児童・生徒の課題として、小学校における暴力事件の増加や、中学に入学した際、倍増する不登校がある。これまで、スポット的であった小中連携を充実させて、小中学校の教員が互いに行き来し、9年間の一貫した教育を行う「小中一貫教育」により、これらの課題を解消いたしたい。このような小中一貫教育を行う学校を小中一貫校という。

・ 県の予算を付けてもらえるよう水面下では知事部局に働きかけている。市も多額の費用が必要になることから、早期に計画を立てていければと考えている。跡地利用の案については、今後地元の声を聞かせていただくとともに、別途検討委員会を一刻も早く設置していく。

(2) 一番効果的であると認めておいて一体型を設置しない方針、とは残念です。一貫校としては「一体型」が望ましいあり方であることは桔梗が丘住民は理解しています。ひとつの学校で全学年が学ぶことはもっともふさわしいと思われ、校長の学校経営手腕が発揮できます。また、何よりも先生間の意思疎通が常に行われ、多くの先生が子どもを見守ることができます。

(3) 『「隣接型」を設置いたしたい』との説明ですが、名張桔梗丘高校と桔梗が丘東小学校は「隣接」していません。途中に信号が2か所あり、水路があり、生活道路があります。校門は住宅に面しています。もし通行のために運動場側などに出入口を設けるとすると、不審者侵入の虞が生じ、学校の安全管理上、大きな問題となります。

名張桔梗丘高校の職員室と桔梗が丘東小学校の職員室との間を歩いて移動するときの距離、荒天の日や積雪の日にも子どもや先生が行き来に要する時間を考慮されたのでしょうか。また子どもたちが2つの学校を移動すること自体、大きな負荷になることは必定です。

(4) 日常の学校活動が、それぞれ桔梗が丘東小学校校舎と名張桔梗丘高校校舎で別々に行われるのであれば、一貫校としての存在意義は薄らぎます。市教委のリーフレット「小中一貫教育」に示されている「義務教育9年間の一貫した系統性・連続性のある指導」、「小・中学校の教員が一人ひとりの子どもの現状を把握・共有」の実行が難しいと想像されます。

(5) 保有教室数は、「教育要覧」に次のように示されています。 *1

桔梗が丘小学校	普通教室	19	特別教室	6	教室数 計	25
桔梗が丘東小学校	普通教室	10	特別教室	9	教室数 計	19

教室数は桔梗が丘小学校が多く、「(桔梗が丘小学校が) 教室数が少ない」という市の説明は、あてはまらないように思います。また「運動場は桔梗が丘東小学校が一番広い」という説明でしたが、桔梗が丘東小学校、桔梗が丘南小学校、ともに同じ面積(11,000㎡)となっています。 *2

(6) 市教委は、統合後の桔梗が丘東小学校で学ぶ1年生～4年生の児童数を次のページの表のように試算しています。

---

*1 *2 名張市教育委員会「『平成26年度 教育要覧』・『平成27年度 教育要覧』「学校教育施設」による
(「平成27年度 教育要覧」には保有教室数が記載されていないため、平成26年度の記載を参照した)

＜統合後の児童・生徒数・学級数の見込み＞ *1

年度	児童数	統合校の学級数	現状のままでの学級数の計 *2
平成28年度	553	16	18
平成29年度	565	17	19
平成30年度	552	16	20
平成31年度	527	16	18
平成32年度	527	17	19

上記の教室数に加えて、さらに支援学級の教室が必要です。教室はあるのでしょうか。

(7) また、名張桔梗丘高校での小５～中３生は20学級となると示されています。

名張桔梗丘高校の第１棟（管理・教室棟）にある2、3階の普通教室だけでは不足します。また学年配置の配慮も必要ですので、おそらく別棟となる第３棟（普通教室棟）も使用する計画でしょうが、この建物は職員室から一番離れている棟です。先生が常に子どもたちに接することが難しくなります。

(8) 「一貫教育により『中１ギャップ』をなくす」と説明されました。新しい環境になじめず、友達関係も変わるからだとされています。精神的な成長、自意識の確立などは学年が上がるにつれて立派になっていきます。4,5制の一貫校となると、現在の名張桔梗丘高校で学ぶことになる小学5年生の方が、中1よりも低学年のため「小5ギャップ」の生じる心配の方が大きくなります。

(9) 説明会で、「一貫校では『いじめが少なくなる』という調査結果がある」との発言がありました。

小中一貫校設置によっていじめが減少するのなら、名張市内すべての小中でただちに一貫校設置に向けて対策を講じるべきです。桔梗が丘地域に設置する計画の一貫校だけがいじめの心配がなく、他の地域では今までのままであるとしたら、桔梗が丘の住民として心苦しく思います。

(10) 友だち関係の悩み等は、多くの場合、さまざまな要因が複雑に絡み合った事情が背景にあるとされています。低学年で友だち関係に悩んだ子どもの場合、一貫校のために関係が9年生(中3)まで続いてしまう、と懸念する声もあります。

(11) 市教委の配布資料「桔梗が丘地域における隣接型小中一貫校設置の考え方について」には、

「３．施設隣接型の（仮称）桔梗学園は小中一貫教育の成果をより引き出すことが可能」として、

「桔梗が丘東小学校と名張桔梗丘高等学校は隣接しており、小中一貫教育を実施した場合、子どもの学力・体力向上や不登校をはじめ、様々な生徒指導上の問題・中学入学時の不安解消等の成果が期待できます。」

と説明されています。保護者や地域の住民にとっては、どのような理由で成果が期待できるのか、一貫教育によってなぜ好ましい結果が得られるのか、十分に理解できていません。さらに「隣接」以外では実現しないのか、わかりやすい説明を望みます。

---

*1 「名張市立小中学校の規模・配置の適正化後期実施計画に関する住民説明会」配布資料による 平成28年3月13日

*2 「現状のままでの学級数」とは、3小学校がそのまま存続したときの学級数（上記配布資料による）

また、市内の全小中学校で、成果が期待できる施策を実施してくださるようお願いします。

(12) 小学校5,6年生は上級学年としての自覚も生まれ、学校のリーダー的な位置に立って低学年児童の面倒を見るようになる、と言われています。５年生で名張桔梗丘高校校舎へ移ることになれば、上級生がいるためにその力を発揮する機会を失う大きな心配があります。

(13) 市教委の計画は、なぜ4,5制なのですか。その詳しい説明はいまだありません。

桔梗が丘東小と名張桔梗丘高校校舎に分離するのは、あるいは将来の5,5制を視野に入れているためでしょうか。

(14) 名張市長は、平成28年3月の市民向けメッセージの中で、

「3つの取組を進めます。
1つ目は、小中一貫教育の取組です。
すでに実施している自治体もありますが、それは小学校が4年制、中学校が5年制で、現在の小学校5年生が中学校1年生になり、その時から教科担任になるというものです。
私は、これを小学校5年制、中学校5年制とし、義務教育を10年間にしたいと考えております。
小学校5年制とは何かと申しますと、保育所、幼稚園の年長さん、つまり5歳児を義務化するということです。
こうすることで、質の高い幼児教育を実現し、また、学校間の段差をなくし、いわゆる小1プロブレムや中1ギャップのような課題等を解消することができるのではないかと考えております。」（関係部分のみ）　*

と述べておられます。また教育長も説明会で5,5制に関する発言をしておられます。

おそらく5,5制を視野に入れた一貫校設置をビジョンに持っておられるのだろうと推察されます。その伏線として、一貫校の学年割を４年生まで、５年生から中３まで、と分割されたのでしょうか。

(15) 文科省が義務教育10年制の検討を行っていることは報道で知られています。しかし、幼稚園教育との整合性、法令の改正などが必要であり、何よりも国民のコンセンサスを得る段階にまで至っていませんので、文科省も具体的な動きは始めていません。市長のリードは高く評価しますが、義務教育制度は国の責務です。名張市が全国に先駆けて、法令も準備されていない段階で、幼稚園の年長組から小学校に入学することになる、とメッセージを出し、あたかもごく近い将来に義務教育が10年制になる、との印象を市民に浸透させることの是非はいかがなものでしょうか。

(16) 市教委は平成27年9月より、小中一貫教育推進校として、つつじが丘小学校と南中学校で調査・研究を始めています。この研究・検証を平成30年3月まで行い、30年度に南中学校で本格実施し、平成31年度以降、市内全域に順次拡大する、と示しています。

(17) つつじが丘小学校・南中学校の検証結果、とくにどんな内容の連携を行ったのか、

---

* 名張市公式ホームページ　「市長からのメッセージ」　平成28年3月

連携はどの程度の頻度で実施されたのか、成果はどうだったか、先生方の評価はどうか、子どもたちの反応はどうか、子どもの力はどの程度上昇したか、実施上の課題は何か、それをどう解決するか、さまざまな問題点が見えてくると思います。ぜひとも市民に詳しく公開をお願いします。

(18) その検証結果を十分に精査してから桔梗が丘地域における一貫教育計画を立案することが基本であり、最も重要で、当然の過程です。

教育に失敗はあり得ません。あらゆる観点からの検証に期待します。

(19) 市教委は、市内全域で一貫教育の推進を計画しています。公教育は誰にとっても公平で、地域的な偏り、教育内容の差異があってはならないものです。名張市に住むすべての児童・生徒が、同じ内容の、同じレベルの教育を享受する権利があります。

桔梗が丘地域の子どもたちのみが充実した教育を受けることができる学校の設置は、住民として賛成できません。必ず市内すべての学校において、一貫教育の利点を生かした同じ方式による授業展開を希望します。

(20) 桔梗が丘小学校と桔梗が丘中学校は、桔梗が丘東小学校と名張桔梗丘高校との距離よりも近い距離にあります。より「隣接」に近い関係です。桔梗が丘地域において一貫教育を実施するならば、現在の３小学校と桔梗が丘中学校、北中学校を包含した形態での連携型教育システムを構築していただきますよう強く望みます。

(21) 一貫教育のリーフレットには、英語教育に力を注ぐことが説明されています。市民としては、市内の小学校で英語の授業が始まることに期待しています。

なお、リーフレット「小中一貫教育」に示されている、

小学校１年生からの英語教育の実施

身につけた英語でふるさと名張を世界に発信します。

という表現は、具体性を欠く説明と思われます。9年間どのような指導を行い、義務教育終了段階でどの程度のレベル、英語理解力、英語表現力を目標にしているのか、児童・生徒にどんな行動を期待しているのか、市民によくわかるよう詳しい説明をお願いします。

同時に英語の先生が、楽しく、よく理解できる英語を小学生に教えることのご苦労が想像されます。市教委は、先生の負担が過重にならないように、また子どもたちが専門性の高い、優れた指導力を持つ先生の指導を受けられるよう切望します。

また、中学校と高校の教員免許を持ち、中学生に好奇心を抱かせ、自然科学の未知の世界に導くような、きわめて高い学問的知識を持つ、造詣の深い、そんな先生を一貫教育の学校から失うようなことのないようお願いします。

(22) 教育長は、このように述べておられます。 *

「基本的には、トップダウンよりもボトムアップの考え方を重視していきます。
そのため、
・市民や学習者・パートナー等との対話を重視し、それぞれの考え・意見・声に耳を傾けるとともに、必要なことには一刻も早く対応、反映していく姿勢で臨みます。」

---

* 教育長「平成26年度　マネージメントベーシック（基本的な考え方・取組）」　平成26年4月14日

市民が「ボトム」であるとは思っておりません。

対話を重視し、考え、意見、声に耳を傾ける姿勢をお持ちであることを言明しておられるのですから、小学校の統廃合、一貫教育に関して地域の思いをしっかりと受け止め、「反映」していただくよう強く望みます。

(23) 津市教育委員会は、津市美里地域において、平成29年度開校を目指した一貫校の準備に入っていると伺っています。美里地域内３小学校と美里中学校による、１学年1学級の一体型小中一貫校の設置を計画し、そのために新校舎を増築、全教室に空調設備、エレベータの設置をプランに入れています。*

本市とは事情が異なりますが、桔梗が丘地域としては、学ぶところはないか、参考にしたい考え方、取り入れたいシステムはないか、強い関心を持っています。

---

* 津市公式ホームページ　教育委員会のページ

3. 市内中学校の学区

市内中学校の通学区域については、市域全体で難しい課題を抱えていることは承知しています。桔梗が丘地域内でも、距離的に近い位置に中学校がありながら、遠い中学校に通学しなければならない地区があります。

(1) 住んでいるところに近い中学校がありながら、その中学校に通学できないことは生徒本人、保護者にとって納得できる状況ではありません。この矛盾のまま、すでに長い年数が経っています。

(2) 「適正化実施計画」に、「統合は、新設校は原則建設せず、既存の学校施設を利用する。」とあります。児童・生徒の大幅な増加が見込めない状況にあること、厳しい財政事情などが背景にあるでしょうが、理由を明示することが必要です。

(3) 「新設校は原則建設せず、」とあることから、校舎増築、改築の余地はあるものと理解しています。

(4) 市長が推進に力を入れておられる「名張市総合計画『新・理想郷プラン』第１次基本計画」には、「生きる力を育む教育の推進　基本方針」に、

「夢に向かって主体的に学び続ける子どもの育成を目指して、教育内容の充実を図るとともに、安全で快適な教育環境を整備します。」 *1

と示されています。

(5) また、教育長の改革方針に、ミッションとして、

「将来を担う子どもたちが、安全・安心な教育環境のもとで、夢や希望を持って学び続け、自信と誇り、思いやりや助け合いの心と自立していく力が育つよう、市民みんなできめ細やかな教育が進められるよう支援していきます。」 *2

と力強く示しておられます。

自立していくための力をつける学習指導体制の構築はもちろん、ここでも「安全・安心な教育環境」が重視されており、保護者や市民は心強い思いをしています。

「安全で快適」、「安全・安心な教育環境」と示されていることは、納得できる通学区域編成、無理のない通学距離、通学途上の事故の未然防止、保護者の不安の解消等を当然含んでいると考えるのは自明のことです。

(6) 中学校の校区については、市民の支持の得られる抜本的な見直しを強く求めます。その際、必要ならば校舎増築も視野に入れた改革をぜひ実行してください。

---

*1 「名張市総合計画『新・理想郷プラン』第1次基本計画」第1節 生きる力を育む教育の推進 平成28年2月

*2 平成26年度名張市教育委員会教育長の改革方針（率先実行取組）第1項　ミッション

4.　三重県立名張桔梗丘高等学校跡地の利活用

名張桔梗丘高等学校閉校に伴う跡地利活用については、現在まで県、市、地元、関係機関等によって慎重に検討されていますが、桔梗が丘地域としては、まだ最終的な結論に至っていない、と認識しています。

(1) 県、市、地域で構成される「桔梗丘高校跡地利活用検討委員会」は平成28年３月までに17回の会合を重ね、その利活用についてさまざまな観点から協議されてきました。
(2) 平成28年3月26日の第17回会合において、下記の件が確認事項とされています。

〈桔梗が丘自治連合協議会〉

- **三重県は教育委員会から手が離れて跡地利用を検討することになった。名張市からは、跡地利用について調査検討したという。県と市が十分検討したのかどうか。**
- **その後、市から小中一貫校が提案されたが、県はこれまでどんな対応をしてきたのか。3月13日説明会があったが、反対意見が多い。跡地利活用はすぐに進めることはできない。**
- **桔梗が丘としては、名張市の提案（小中統廃合及び小中一貫校）に対して白紙に戻して検討したい。**
- **アンケートやパブリックコメントだけで進めるのではなく、関係者等の意見を聴いて協議を重ねることが必要である。**

〈県〉

- **県は総務部、教育委員会、地域連携部が協議を行ってきた。譲渡の条件について話し合っている。**
- **小中一貫校を否定するものではなく、名張市の考え方を支援したいと考えている。**
- **財政的な支援については、改修補助は担当者としては難しいと判断する。**
- **県が引き続き管理するのかという点について、国体に絡んでグランド整備は名張市が県の補助金により行うことになり、譲渡の件は協議調整が必要となる。**

〈市〉

- **３月13日の説明会は、２月17日議会への説明、翌日の新聞報道を受けて学校統廃合がメインになり、小中一貫校の説明が十分できなかった。**
- **否定的な意見が圧倒的に多く、特に保護者、地域の方々は現状の配置、教育内容に満足している中で心配や不安があったと考えている。**
- **今後、十分に理解してもらえるようにしていきたい。理解をしてもらった上で進めたい。**
- **今後小中学校ごとに説明会を開催し、質疑応答をＱ＆Ａにして整理し、住民にわかりやすくしたい。小中一貫校のメリット、デメリットを十分に説明し、学校ごとに違いがあるため、それに合わせた説明をする。隣接型の小中一貫校の良い点を重点的に説明する。**
- **市としては、29年度に設立準備委員会を立ち上げ、30年度に試行及び校舎改修をし、31年４月開校を目指したい。合わせて廃校となる３校の利活用計画も作成し、整備を進めたい。**

＜桔梗が丘自治連合協議会の考え方＞

・まず小中学校の適正規模・適正配置及び教育一貫校について独自に検討委員会を立ち上げ、定期総会までにまとめをしたい。これにより名張市との協議を進めることにする。

〈まとめ〉

以上のことを確認する。したがって、上述の課題を検討のため、当検討委員会は当面の間、休会とする。

(3) 以上の経緯から、桔梗丘高跡地利活用については、明確な結論が出ていない段階であり、桔梗が丘地域としては「白紙」状態であると判断しています。

市が桔高施設を使用することに関しては、説明し、理解を得る努力がいっそう必要であると考えます。

(4) 市の説明では、桔高は設備が整っており、「あらゆるダイナミックな教育活動・特別活動の展開が可能」と説明し、保有教室数が41もあるとしていますが、*1 普通教室は25教室に過ぎず、あとは化学実験室、物理実験室、調理実習室等、高等学校教育のための特別教室です。 *2

(5) 一方、各小学校には必ずあるプール、給食関連施設がありません。

桔高の5、6年生がプール授業を受ける際には、全員が水着やタオルを抱えて桔梗が丘東小学校まで移動することになります。授業が終われば、また桔高の教室まで戻らなければなりません。

高校の校舎は、給食を実施するための車両の出入口や、給食関連施設を設けるような校舎として設計されていません。普通教室への運搬も大きな課題です。

給食は5、6年生だけとなるはずです。中学生と昼休み時間の調整をどうされるのか。保護者、地域にプランをお示しくださるようお願いします。

(6) 高等学校施設は、高校生の体格に合わせた基準によって建築されています。

教室は高校生1クラス45人を収容する面積です。階段の手すり、窓の高さ、トイレの設備、実験室の大きな机、体育館設備、運動用具・器具等、さまざまの恒久施設、備品は小中学生には不適合と思われます。

(7) 高校の授業で使用されたさまざまな器具用具、実習用具、実験器具、生物標本、実験用薬品等は当然名張青峰高校など他校へ移転するか、県が整理すべきものです。小中学生には適さない物品が多くあるはずです。図書室の蔵書も、小中学生には難解な内容の図書や、未熟な年齢の小中学生にとって不適切な図書があると思われます。

名張市は、名張桔梗丘高等学校の施設、備品、教材等を安易に引き継がないよう希望します。

(8) 計画では、平成31年３月末に終業式、閉校式を終えて、わずか7～10日後に別の校舎で新学期をスタートさせなければならないことになります。それまで学んでいた校舎や教室と同様の準備ができるでしょうか。先生が児童・生徒に、まだ完成していないから我慢しなさい、と児童・生徒に言うことのないよう万全の準備ができるのでしょうか。

---

*1 「桔梗が丘地域における隣接型小中一貫校設置の考え方について」名張市教育委員会

*2 桔高の教室数については、「平成24年度第7回伊賀地域高等学校活性化推進協議会」（平成25年1月17日）で配布された県教委の資料によると、「普通教室数25、特別教室数12、計37」と記載されている。

(9) 閉校になった名張桔梗丘高校の建物、設備を、わずかな改修・整備で小中学生がそのまま学び舎として使用できるとは考えられません。

名張桔梗丘高校は昭和48(1973)年度創立。校舎はすでに43年も経過しており、小中学生の一貫校として、莫大な経費をかけて改修・整備する価値があるかどうか、疑問です。予算の裏付けも説明されていません。

名張桔梗丘高校の校舎が老朽化していることについては、県も認めています。*

(10) 本提言書のとおり、今回名張市が示した名張桔梗丘高校跡地利活用計画案の実現は非常に困難と思われます。

よって、県及び市の関係部署へは、県域・伊賀地域（名張市・伊賀市）の活性化につながる建設的な検討と提案を引き続きお願いするとともに、当自治連合協議会と桔梗丘高校跡地利活用について、改めて真摯に協議することが最も大切と思われます。

---

* 「名張地域新高等学校の設置について、三重県教育長の説明会」平成25年12月1日　この会議で桔高が老朽化しているとの発言が取り上げられ、県教育長は、「現在、県内の普通高校は殆ど改修されていません」と述べている。

5. ホッケー競技場について

一貫校設置の説明の際、平成33年に開催される三重国体のホッケー競技会場として、名張桔梗丘高等学校跡地グラウンドを活用し、地域の活性化につなげるとした説明がありました。

(1) ホッケー会場として使用するのは三重国体だけの計画であり、小中学校の統廃合、一貫校設置問題とは切り離して考えるべき案件です。

(2) 市教委は、

「平成33年度開催の三重国体で、施設整備には県の支援を受けられることから、閉校する名張桔梗丘高等学校の運動場にホッケー競技場を誘致し、地域の活性化につなげたいと考えています」 *

と説明していますが、具体的な説明、方針も示されていません。

ホッケーと関連させることで、どのような「地域の活性化」を進められるのか、理解しがたい内容です。詳しい説明を求めます。

(3) 名張桔梗丘高校運動場のどの部分をホッケー競技場として使用する計画ですか。もし一貫校を設置するのであれば、教育活動に支障がないように万全の計画と準備が不可欠です。

(4) 運動場にホッケー専用の設備を残した場合、小中一貫校としての学習活動は残りの運動場、つまりホッケー場として占有された部分以外を使うことになり、体育の授業、放課後の部活動などでの活動可能範囲はおそらく限定されます。「広い面積であらゆるダイナミックな活動ができる」とした市教委のリーフレットの説明どおりにはならないように思われます。

(5) 公式競技のために、人工芝を敷設すると伺っています。その他付帯設備も必要です。これらは国体終了後、どのように扱われるのでしょうか。

(6) もし市が維持管理を行うのなら、年間維持費はどの程度の金額で、どこから捻出することを考えているのでしょうか。市民の税金でホッケー競技場を維持するなら、市民に対して説明する義務が生じます。このホッケー競技場誘致、維持管理の件は、小学校の統廃合、一貫校設置問題とは別にして、市民に対する責任であると思われます。

---

* 「三重県立名張桔梗丘高等学校跡地等利活用の計画について（素案）」名張市教育委員会　平成28年2月20日

Ⅳ. あとがき

学校の統廃合、小中一貫教育、小中一貫校等に関する桔梗が丘地域の声

市の条例に示されているとおり、桔梗が丘地域の「地域づくり組織」は桔梗が丘自治連合協議会です。

地域づくりでは、地域ぐるみで子どもの教育や学校の支援に取り組むことになります。

地域住民の参画促進、地域の優れた人材や環境を生かした学習の推進など、家庭、地域、学校の連携を一層強化して学校を応援するものです。

地域にとって大きな誇りであり、財産である学校、子どもが学び、遊び、保護者にとっても親しみを覚えてきた学校がいま、この桔梗が丘において、3校が一瞬にして消えようとしています。新しく生まれ変わるとされる学校が、地域にとって本当にふさわしい学校になるのかどうか、まったく見通せない状態が続いています。

昭和56(1981)年、人口増加率で名張市は全国第1位になりました。新しい町が次々と生まれ、建築ラッシュが続きました。桔梗が丘駅は大阪方面に通勤、通学する人で混雑し、座席を確保しようとして早くからホームに人々が並びました。

町にはあちこちに子どもの姿が見られました。地域の子ども会は活発でした。そのときの子どもたちはすでに成人し、現在さまざまな分野で活躍しています。

今、桔梗が丘地域は難しい時代を迎えつつあります。

長い年月が過ぎて、現在、桔梗が丘地域は高齢化が進んでいます。65歳以上の占める割合は30.4%。番町によっては比率のかなり高い町があります。町なかで元気な子どもの声を聞くことも少なくなりました。

だからこそ、この桔梗が丘地域を元気にし、将来を託することのできる若い世代や、子どもたちが貴重な存在なのです。その子どもたちが学ぶ学校は、この桔梗が丘に住み、桔梗が丘の街を愛する私たちの、何ものにも代えがたい誇るべき財産です。

今回、市教委から発表された、「名張市立小中学校の規模・配置の適正化後期実施計画」に関して、桔梗が丘にお住まいの皆さまからたくさんの声を頂戴しました。

保護者としての疑問や要望、これから子どもを学校に通わせることになる方の不安の声、子ども会の意見、地域としての考えなど、さまざまな貴重なご意見を桔梗が丘自治連合協議会でまとめ、「提言」とさせていただきました。多くのご意見を寄せてくださいましたことに厚く御礼申し上げます。

いただいた声を、一部ですが掲載します。

平成28(2016)年5月21日

「名張市立小中学校の規模・配置適正化後期実施計画」に対する
桔梗が丘自治連合協議会提言委員会

学校の統廃合、小中一貫教育、小中一貫校等に関する桔梗が丘地域の声(一部)

<小学校の統廃合について>

・子どもの通学手段をより慎重に考えるべきである。
・統廃合の前に、施設、通学路、通学時間策の環境整備が先である。
・桔梗が丘西地区の保護者として、通学道路の安全対策を除き、小学校と中学校を含め、現状どおりで何の問題もない。
・子ども人口の減少のため、統廃合は致し方ないかとも思う。しかし、規模の大きい方が小さい方に吸収される事例があるのか？　そんな事例を知りたい。
・1中学校3小学校の統合は白紙にする。
・現在の桔梗が丘3小学校を1つにすることは無理があると考える。現在、桔梗が丘小学校の児童の7割近くが桔梗が丘西から登校していることに配慮しない枠組みは現実的ではない。
・子どもの人数が減っていて、仕方ないことだとは思いますが、何も桔梗が丘で一番少ない桔梗が丘東小に桔梗が丘地域の子どもたち全員を統合するのはおかしいと思います。人数の多いところに統合するのが普通では？
・人数の少なくなった小学校は、統合もやむを得ないのかなと考えます。ただ、桔梗が丘小学校は2～3クラスあり、少人数で、いい環境で学習ができていると思います。統合により通学路がまた遠くなったりすることが心配です。片道30分以上の登下校は、低学年の雨の日に歩くことを考えると親としても心配になります。不審者もいるので。学年の人数があまり多くなるのも、先生によって校内で差が出ないか、など不安もあります。子どもたちの目の行き届く環境であってほしいと思います。
・児童数が減少しており、統合自体はやむを得ないと思うが、一番児童数の多い桔梗が丘西地区の児童が現在の桔梗が丘小学校よりも遠い桔梗が丘東小学校まで通うという教委の案には反対する。今後児童数が大きく変わらない中での統合には反対。
・桔梗が丘小学校は児童の人数減はあまりみられないのに、なぜ統合する必要があるのか。それに桔梗が丘小学校の人数が一番多いのになぜ統合後は東小まで行かないといけないのか。ほとんどは桔梗が丘西からの児童なのに、徒歩通学は子どもに負担となるし、通学距離が長い程交通事故や事件に巻き込まれる可能性は高くなる。早朝からの出発なのにさらに早くなることで子ども、親にもかなりの負担をかけてしまうことになる。
・通学自体が子どもの負担になり、学校へ行くのが嫌になったり、疲労で家での自宅学習の減少にもつながる。徒歩通学は過酷すぎる。教育委員が子どもの安全を考えてくれるのであれば、実際に教育委員が早朝に西7番町の方から東小までの距離を小１の後について歩いてみたらと思う。
・地区により児童減少により、児童数の少ない学校が児童の多い学校に吸収統合される場合は多々あると思うが、当桔梗が丘小学校においては桔梗が丘西地区の児童も多く、他の学校に吸収統合する必要性はない。!!　今回の桔梗が丘3校の統合については反対である。
・市の「適正化基本方針」では、小学校の１学年の適正クラス数は2クラスとなっていますが、1学年が１学級の場合より、1学年が2学級のほうが良いという科学的根拠がありますか？　これは、多人数の中で切磋琢磨されたほうが成績が上がるという論理が本当に正しいのか、クラス替えによって人間関係の固定化が防げるのか、実証データをもとに方針が策定されたのかを確認するためです。また「中学校についても１地域で1中学校が望ましい」という根拠が分かりません。
・もし3校を統合しなかったら、いつごろ何が起こりますか？　それは大きな問題ですか？　その大きな問題を回避もしくは解決するために、3校の統合以外の解決策は検討されましたか？
・ 3小学校が統合することによる良い点は何ですか？ また統合により懸念されることは何ですか？
・桔梗が丘小学校・桔梗が丘中学校には桔梗が丘西地区の子どもたちが多く、桔梗が丘西5番町の上の方だと、現在の桔梗が丘小まででも、帰り道、登り坂であり、1年生の子どもだと約1時間かかります。

＜小中一貫教育・小中一貫校について＞

・使用する校舎ありきの小中学校一貫校および学年分けではなく、しっかりとした根拠と効果の測定に基づいた一貫校をつくるべきである。
・一貫にするメリットをいろいろ説明されましたが、全国標準でない取り組みには反対です。
・市が説明するメリットはあくまでも理想論にすぎず、デメリットの方をもっと検討すべきだ。
・必要性が理解できない。一貫は、「中高」なら意義がある。
・日本国全体の小中学校が一斉に一貫校になるなら仕方ないと思うが、名張市が先駆けて取り組む意味が理解できない。
・4.5制で校舎が別。説明会では行事も別。リーダーも6年生→4年生にという印象を受けた。高学年は、本来なら小学校のリーダーとしての責任感や指導力が養われるはずの大切な時期・経験等が奪われます。結果、人間として社会として必要な指導力やコミュニケーション能力が育成できず、自信の喪失につながることになる。
・4,5制による中1ギャップの解消のメリットよりも、5、6年生は低学年の子どもたちを指導したり、一緒に遊んであげたり、一緒に登下校することの方が大切だと思います。4,5制ではそれができなくなる。小学校高学年の子どもは、人間として、社会として必要な指導能力やコミュニケーション能力、他人を思いやる心を身につける大事な時だと思います。それができないまま成長してしまう事の方がとても危険であると思います。
・中１ギャップに起因する不登校、暴力事案等の解消を目的に桔梗が丘地区だけ4,5制の一貫教育を導入するということだが、市内の他の中学校に比べて桔梗が丘中においてこれらの問題が多く発生している事実があるのか？
・4,5制にする意味がわからない。中１ギャップの解消というが、友達関係は全く変わらなくなり、よけいに行きづらくなるので反対。
・人間関係の固定化への対応‥‥小学校で子どもが人間関係においてつまづきがあった場合は、中学へかわることは新たな環境での再スタートのチャンスである。一貫校では逃げ場や希望を失う恐れがある。
・転出入への対応‥‥法改正に伴い、独自教科、学習の前倒しが可能になったが、学校間の取り組みに格差が生じ、教育の機会均等が阻害されることとなる。転入者に対する教育のケアはどうするのか。
・高学年におけるリーダーシップの育成‥‥行事や生活づくりの責任を負い、自治の経験を経て、主体的に自らの価値観に基づき判断し自己の世界を確立していくことが高学年には重要である。中学生がいることでその機会が奪われる。「学校適応力」「精神的健康」などの複数の項目で一貫校が非一貫校を下回る、とのデータがある。
・学校行事各種‥‥運動会は合同か。9学年一斉になると各学年の種目も減り、子どもたちがかわいそう。保護者観覧席、駐車場は確保できるのか。
・一貫にすることで、入学式、卒業式はいつ行われるのか。修学旅行は小4でいいのか、今までどおり小6で行くのか。統合して人間関係ができていない中で行く旅行に、子どもたちはどう思うのか。全てが大人の勝手な思いだけで、子どもたち主体を忘れている。子どもたちの声は直接聞いたのか。
・文科省実態調査(平成26年5月・9月中教審へ報告)では、47都道府県のうち一貫校を推進しているのは15%である。また1743市町村のうち取り組んでいるのは12%、小中連携は66%である。実施のうち確かに87%は成果有りとの結果が出ているが、同時に課題有りも同率87%(うち大きな課題7%)となっている。
・南中校区の様子を聞くと、年に数回交流しているだけのようだ。また教師の負担が増えているとも聞く。子どもにも教師にもメリットは少ないため反対。
・新しい教育方針については反対はない。新しい教育の改革は必要であると考える。効果はすぐには表れないと考える。10年くらいのスパンで考えるべし。

・メリットを説明されても、何の納得もできなかった。中1ギャップ、英語教育だけのために、小中一貫する必要があるのか。小学5年生が中学生らと同じ環境にいるだけで、体の大きい生徒たちを怖がる子もたくさんいると思う。また非行の道へもいく場合もあるではないか。メリットばかりの説明では、住民は納得しない。
・すでに桔梗中と桔梗小は道路を挟み、小中一貫校の形成がなされている。桔高の跡地に一貫校を創設したところで、結果は同様であり、現状のままで問題はない。
・名張市全体で一貫校を目指しているのであれば、つつじが丘小、南中の一貫教育と同じように、既存の桔梗が丘小、桔梗が丘中とを連携させるという順序を踏むべきだと思います。
・保護者や地域住民からは多くの質問があります。通学時の安全確保のこと、放課後児童クラブのこと、美旗に戻される池の台の児童のこと、運動会のこと、などしっかり聞き取りをしてください。
・教育長が、中学校で暴力問題が増加していると言われておりましたが、暴力問題が増加している中学生の中に5,6年生を一緒にするのはおかしいし、一緒にしたからといって暴力問題が減るとは考えられない。中学生が小学生の1,2年生との交流で心が癒されるメリットを言われておりましたが、桔梗丘高校と桔梗が丘東小学校まで、池も挟んでいるし、気軽に行ける距離ではない。そのメリットは1年生～9年生が同じ建屋だからこそ、実現できる事だと思います。
・4,5制の小中一貫校が子どもたちのためであるとは、全く思えません。桔梗東小に小学生が全員入らないから、人数の関係で桔梗丘高校に5,6年生と中学生を一緒にしているだけにしか思えません。4,5制のデメリットを埋める程のメリットが全くないと思います。
・中学校の校区を小学校の校区に合わせる等校区の改編をし、桔梗丘高校の維持費の予算を新設校設立の予算や校舎の改装に変更することで、各学区適正規模での校舎一体型の小中一貫校を作る。

<市・市教委の方針について>

・行政主導で、主役になるはずの現役児童・生徒の保護者などの意見が入っていない案を、あたかも決定かのように進めていることは問題です。
・まだ何もわかりません。もっと親や子どもたちがなるほどと、わかるように説明してほしい。
・現状の問題点に対して案を出し、それらの問題点を解決しようと取り組む姿勢は評価できる。
・説明会に参加したが、これから進めていく計画についてのメリットが全く感じられなかった。
・以前求められたパブリックコメントを求められた際は、桔梗学園や4,5制の案は書かれていなかったように思う。なのに、その時は意見がなかったとする教委の言い分はおかしい。
・市教委は、私たち桔梗が丘市民(名張市民)に納得のいく説明もなく決定し、新聞で発表することは、かなり勝手なことだと思う。
・去年、学校で名張市が目指す小中一貫教育というパンフレットが配られました。しかし、そこには意見が言える場がある事は書いていませんでした。なので、3月にあった各公民館での説明からが、意見交換の初めての場と考えます。また、パンフレットには、つつじが丘小学校等の取り組みを紹介していましたが、つつじが丘の小中一貫校と教育委員会が進めている桔梗が丘の小中一貫校では、全く違うものと、とらえます。
・教職員の負担をどう考えているのか。経過措置として一方の教員免許で当面実施されるということであるが、いつまでを予定されているのか。両免許の併有強制措置をとるのか。
・中学教師が小学生を、小学教師が中学生を、精神的な発達や年齢が全く異なる子どもたちを、職種の違う先生方がきちんと対応していただけるのか。
・先生方の職務における負担が大きくなるということは、子どもたちに対するきめ細やかな対応をしていただけなくなることにつながり、問題が起きた場合、放置されることを懸念する。
・近年、報道などでも言われている先生方のお仕事の量や、ご負担などを考えるべきではないでしょうか。教育者の働きやすい職場であることが子どもたち・親も安心して学校に通える事になると思います。
・突然の計画に驚きと怒り。住民の反対が多数なのに、強行しようとしているように思う。

・教委はアンケート結果の数字しか見ていない。そしてメリットしか伝えない。小中一貫になった現場へ直接行ってアンケートをとったのか。一人ひとりの児童・生徒が皆、賛成であったのか。一人も反対の子はいなかったのか。子どもの意見を直接に聞いてほしい。
・学校教育法が改正され、小中一貫校が国の制度として位置づけられたが、文科省によれば、新たな学校種として義務教育学校(小中一貫校)を創設した、との意味であり、既存の小中学校のまま義務教育学校に準じた形で一貫教育を行う形態を省令等に位置付ける予定である(第189回国会参議院文教科学委員会会議録)。全国一律のものが実現できようはずもなく、地域の実情に応じた様々なタイプの学校が存在して当然である。名張市として、また桔梗が丘地区としてふさわしい在り方を地域住民・該当保護者が参画のうえ検証すべきである。
・憲法に国民主権とあるからには、町の重大な案件を決めるのは地域の住民である。市長からのトップダウンあるいは教育委員会の一方的な計画によるのではなく、保護者・地域住民が参画し、きちんと理解を得てから方向を決めるべきである。また、いきなり実施を前提とし議会へ提出することはやめていただきたい。一昨年度の都市新興税導入の際にも市政運営不備からの財源難に市民負担させる暴挙ということで多数の住民の反対があったにも関わらず、住民の代表である議会で可決された。住民の意見を無視する結果で不信感がある。
・具体的なデータの提示など、問題や目的をもっと明確化してほしい。
・以前の「住民説明会での意見について(平成22年7月)」いろんな意見が出ていたにもかかわらず、修正0件とある。きちんと考証されたうえでの判断か。今回も意見を出しても修正の意向はないのか。またこの中で、「具体的な取り組みについて決定事項としてお知らせすることはない」とあるが、平成28年3月の住民説明会では、実施ありきの説明である。また当日の説明は、教育に携わる者が子どもたちに寄り添っていなかったことが残念である。跡地の利用、学校統廃合の推進およびそれに伴う予算削減が目的ではないのか。当局側のこれまでの運営のまずさの始末を未来ある子どもたちにしわ寄せするのは保護者として納税者として納得がいかない。

<名張桔梗丘高校跡地問題について>

・県立高校の跡地なのに何故に名張市がケツを拭くようなことをするのですか。
・学校として使用するには改修や老朽化対策の補強も必要で、そのための費用が血税で賄うのではないですか。官民共同の第３セクター的な事業の企画ではどうか。
・老朽化も考え、取り壊して学校ではない何かとしての活用はできないか。学校として残す必要はないのではないか。
・桔高跡地の再利用ありきの計画のように思う。そこに小中学生の生活を巻き込むことはやめてほしい。いや、やめるべきだ。
・教委が勝手に決めるのではなく、地域の声も聴いて進めてほしい。桔高の跡地がなければ、小中一貫の考えは出なかったはずだ。
・後期課程について桔梗丘高校を跡地を活用することは一定の妥当性はあると思うが、それでも校舎の作り方が高校生仕様となっており、大幅な改修が必要になるのではと考える。そうでなければ使用は難しいのではないか。
・どう考えても桔高の跡地をどう使うか決まっていなかった為、近くの東小を使って、じゃあ小中一貫校にしましょう……と安易に決めたようにしか思えません！　子どもたちのことを全く考えていないように思います。
・跡地問題で苦難の案としか考える事が出来ない。
・学びの館としてはふさわしくなく、他の目的使用を再検討すべきである。
・改修、整備の費用は名張市の全額負担でしょうか。それとも国や県から補助金が出るのでしょうか。補助金が出る場合の制約条件は何ですか。
・施設の維持管理コストが市の財政を圧迫することはありませんか？
・建物の耐用年数はあと何年ですか？　跡地利用案を地域が策定・提出する期限はいつですか？

<その他>

・統廃合をきっかけに、小中学校とも給食を実施してほしい。
・小学校にも全教室冷房を入れてください。「地域ビジョン」作成の際おこなった小中学生に尋ねた『あったらいいな提案』で最も多かったのが、「クーラーの設置」でした。
・現在、近鉄の改札前を通って通学していることが現状の問題点。本来であれば、歩道橋を設置するなど、適切な通学路整備が望まれる。
・桔梗が丘西に住む子どもについては、電車通学により名張小学校・中学校に通うといった選択肢も含めて考えるべきだと思う。通学定期代の市の負担も考えるべきである。市としては、既存の交通インフラを活用するコストの比較を定量的に行うべき。
・当該地域の住民、児童・生徒が反対や不快感を示しているにもかかわらずに、推し進めようとはしないですよね。そんなことをしたら、名張市の市政に対して不信感を抱き、若者はこの町を離れていきます。そのような考えの人が増えれば人口減になり、労働人口の減少、市民税の減収etc.と負のスパイラルに陥ります。真剣に、名張市の将来を考えた上で提案してほしい。
・一貫校設置の前に、先生方の意見やお仕事量、子育てしやすい街づくり、小児科、救急病院の安心、小中学生が楽しく通える学校づくり、など考えて頂きたい。先生方のご意見も保護者として知りたいし、小さい子供がいて預けることのできない人は夜の説明会など出にくいので全軒に伝わるように広報紙などでポスティングして頂きたいと思う。
・桔梗が丘だけ特別な編成をするのではなく、地域差が出ないように同じようにすべきである。名張のどこに住んでも同じような形態で学べるように教えるべき。校区編成を変えてまで統廃合をすべきでない。
・英語教育とか、特に新たなことはいい。地域差が出ないように、同じ6,3制にすべきである。
・議会制民主主義のもと、行政と議会が物事を決めていく仕組みについて、異議を唱えるつもりはない。ただし、今回の一件は、"子どもの将来に関わる重要な問題"であるということを忘れてはいけない。他の件とはわけが違う問題であり、地元の概ねの了解なくしてこの件を進めることは、行政と桔梗が丘地域のこれまで築き上げてきた信頼関係を台無しにしてしまう問題であることを強く主張していく必要があるのではないか。
・小学4年生以上の子どもの保護者は関心が少ない。0歳児～3年生以下の子どもの保護者は深刻に悩んでいる。それが現実である。そっとそのままにしてやってほしい。
・「三重国体のホッケー会場誘致が地域の活性化につながる」というメカニズムが分かりません。「地域」が桔梗が丘というのであれば、桔梗が丘は住宅団地であり、商業地域ではないため、選手役員や関係者が多く来られると迷惑になるだけで活性化するとは考えにくい。
・校舎が足りない事の問題解消として、桔梗丘高校の跡地を利用しているのであれば、ホッケー会場を作る費用を桔梗が丘小学校の校舎増築の費用として活用していただきたい。我々保護者は、税金を校舎増築の工事費として利用してもらう方がとても嬉しいと思います。
・計画を推進するにあたって、考えられる課題をできるだけたくさん事前に抽出し、その発生を未然に防ぐ準備が必要です。
・課題を漏れなく抽出するためには、多方面の関係者から意見を聞くことが大切。決して一部の人たちでやるべきではありません。

桔梗が丘自治連合協議会
平成28(2016)年5月21日

連絡先　桔梗が丘市民センター内
〒518-0626　名張市桔梗が丘6番町1-131-4
TEL・FAX　0595-65-1206